

移轉廣告

前略當社は各位の御引立を蒙り日に月に發展致し候爲め從來の營業所にては不便尠からず依つて十月一日より左記へ移轉仕候間今後も倍舊の御援助願上候
平町南町郡役所前通り
東京恒産會社磐城支社

今秋の流行品

中折帽 一圓八十錢ヨリ
サシ帽 二圓ヨリ
烏打帽 三圓五十錢ヨリ
子供帽色々
最新式豊富ニ揃マシタ
磐城 平町
に鶴屋
電話百四十番

米松

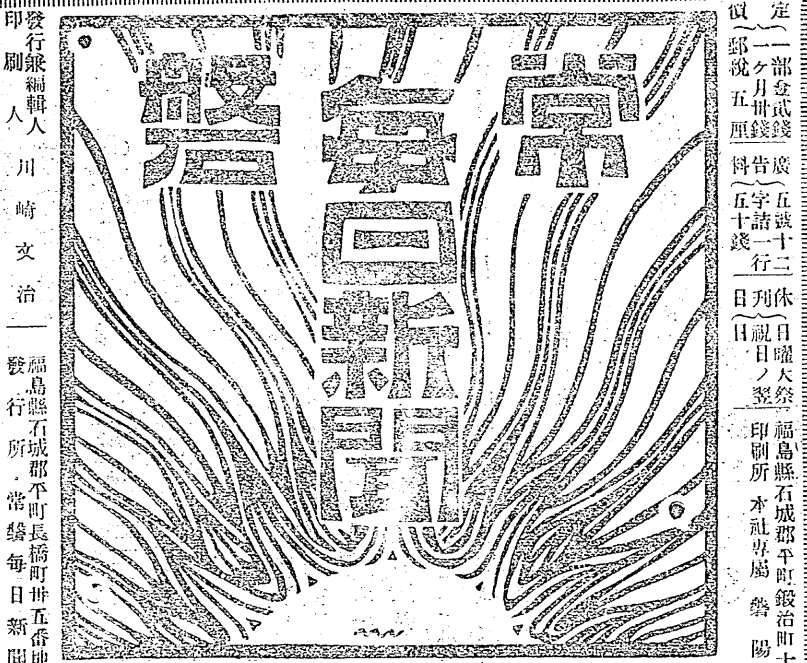
建請負一般木材業
磐城建物株式會社
平町五丁目 電話五一八番

看護婦派出所

の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

洋食は 向上軒

平町東場新道通り
電話五二三番



定一部金武錢 廣告五錢十二行 刊休日曜大祭 印刷所水城郡平町長橋町五番地
印刷所水城郡平町長橋町五番地 電話五二三番

平電不正事件は 因果律なり

山田 綠雨生

寸楮拜呈先夜は心置きなき物語りいたし忻快至極に存じ候、僕は去る廿四日より双葉各地の青年團員諸君の招きに應じ講演行脚い致申居候、歸平は來月四日頃となり申すべし、毎日の新紙を讀みて、平電企の事件益々擴大し、意外の方面に進展する有様を觀て、僕は感無量に御座候、今更乍ら司法權の秋霜烈日嚴として、郷土今日の事件は誠に慨はみ心地よき樂天地に御座候

とき、思はしき問題に御座候、而も是れ一種の悲劇の發生には候はずや、吾れ等は何人に對しても私情私憤を抱かず、事件當面、問題の人々、既知、未知を問はず……さばれば僕は此度の事件を深視して因果律と云ふ哲理を深刻に味はふものに御座候、僕の人生觀社會觀は愈々益々深められ申候、君よ……僕が今旅行しつつある双葉の天地には、唯白雲悠悠として徂徠し、阿武隈の連峯西に聳え、海音は神秘の樂を奏でさやます、郷土は人間味豊かにして、温情に富み、双葉は實に住み心地よき樂天地に御座候

た斷り

「淺薄なる研究よ」は永く續く爲めに一寸一息入れて本日休載

に、書き綴りつゝ有之申候へ共涉らず、トント閉口仕候、何しろ落付いて原稿紙に向ふは夜十時より二時迄に候故、身心共に疲れを覺ぬ申候、貴君の御健闘を熱禱してやまず候

青沼醫院

平町城山(舊城跡)三の丸
內科 小兒科 皮膚科 花柳病科
醫學士青沼淡夫
電話四〇三番

好伊店

良品ヲ安ク賣ル
クースーリ
關内藥舖
藥劑師 關内榮助
電話四〇番

家賃

仲間町 賃拾貳圓
商店向 賃四圓
住宅向 賃拾圓
紳士住宅向 賃拾圓
平町白銀町
加藤營業所
電話三二二番
五丁目十一番
宅地百六十二坪

建築材料

磐城セメント樽入 袋入
板 ガラス 各種
壁用 材料 各種
ペンキ 塗 各種
御照會を乞ふ
セメント、板ガラス安價になりました、御照會を乞ふ

西村屋藥舖
平町二丁目 電話三三番

古山印醫油

特長 美味 經濟
元造 鹽屋本
電話二七番

丸登株式會社

川添房二郎

株式賣買中値

電話に金融致し

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一〇	一〇五
磐城實業	五〇〇	四二〇
磐城實新	三〇〇	二八〇
田村實銀	一一〇	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同 新	一五〇	一八八
同 新	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
同 新	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	四〇〇
同 新	二五〇	一九〇
只見川電	一一五	七五
植田水電	一一五	一一五
好間水電	一一五	一一五
磐城建物	一一五	一一五
磐城製菓	二〇〇	二五〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一一五	一一五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	一八〇
好間軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	三三〇	一七〇
小田炭礦	二五〇	一五〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	二二五	一八〇
同 新	五〇〇	六二五
同 新	三五〇	四二〇
同 新	一一五	八〇

平町田町 電話三三三番
丸登株式會社
川添房二郎

商家の子役に 商業教育を施す目的

来る十日から夜學を開設
明年一月に卒業

平商業學校にては例年の通り来る十日より附屬の補習夜學を開設する由であるが、學科は修身、國語、算術、商事要項、簿記、英語、公民科等にて翌年二月迄には是等を修得せしめる由尙ほ武川校長は語る「夜學は商業に従事し又は従事せしむる者に對し商業に要する知識技能を授けると同時に國民生活に必須の教育を施す目的であるが入學の資格は滿十二年以上にて尋常小學校の課程を卒業し若しくは同等以上の學力を有する者となつて居る」

全国的に審議される 大瀧發電所問題

伊坂町長が提案を握つて九州の會議に連る

伊坂町長は別項個人消息所載の如く九州小倉市に一週間に亘り開會される全國水道協會會議に出席の爲め明日出發するが同町長は例の大瀧發電所問題を全國に訴へて水道水源地の保全策を講せんとし左記議案を

罹災者見舞 贈呈額が決定

石城郷人會が

在京石城郷人會にては震災の義捐金九百六十圓を郷人の罹災者百六十二名に對し見舞として贈呈する事となつたが一般罹災者には一名に就き五圓死亡及び廢疾者の家族には十五圓宛の割當である、因に罹災者の内譯は左の如くである由

死亡四家族、廢疾一名、全燒五十一名、半潰三名、其他百三名

植田町に 醫師が足りぬ

患者は困る

石城郡植田町刀圭界は山野邊文雄氏の外明々堂あり片



栗の効能

栗は美味しくして料理用の果物として随分尊重せられてゐます、栗の効能として、腰、膝のいたみ筋骨の腫れて痛むにかみつけける

近ごろ小鳥の飼育熱が漸く勃興し秋日和のうららかなふけふ小鳥の群をなして嘯り唄ふ山里に小鳥の活動が目醒ましい程であるとかして捕獲する小鳥は大低鶯、山雀、小雀、目白、ひろ、うづら、等で大部分が

重役辯護を断然辭退 同社法律顧問の觀あつた

大瀧辯護士の決意

辯護士大瀧庫氏は從來平電氣企業社の訴訟事件等は一濟其手に修めて處理の任に當つて居た爲めに恰も同會社の法律顧問の如き觀あつた關係上今回の平電氣不正事件に際しては收監重役側の主任辯護士として法廷に現はれる事であらうと思はれて居たが同氏は心中深く決する處ありて栗原以下各重役の辯護を断然辭退し平電氣配人端山正男氏とは個人的關係もある爲め同氏一人のみの辯護に當る事となつた

醜い争闘は 私立校の 近來全く絶無

平町縣立各學校の就學難に伴ひ私立學校に學ぶもの非常に多く現在藤田裁縫女學校の四百名、平陽裁縫女學校の四百名、祐賢學舎の三百八十名、青年學校の四百四十名等私立學校は何れも満員の有様である此れ等私立學校は競争より起るみにくひ争闘が公然と行はれる結果教育の根本を破壊する等の事も決して珍らしくなかつた

個人消息

伊坂員正氏(平町長)九州小倉市に開かれる全國水道協會會議に出席の爲め明日午前九時廿五分の上りで出發する會議は一週間の見込である爲め歸平するのは十八日頃である

大岡金應氏(福新平支長)四丁目の自宅に電話三百十六番を架設した

不平受付

入管者の見送り 一日柳町から加藤隆四郎君が午前九時の下り列車で仙台へ入營されましたが多数の見送り人の中に町當局の方が一人も見られませんでしたが、町當局は入管者の數の多少に依つて見送りをしたりしないだりするのでせうか

(度外生)

伏見助役の答 兵事主任の遠藤君が今日福島へ行つた爲め事實を調べる事が出来ませんが例へば一人であつても入管者は役場の者が見送る例となつて居ます

同會議に提出し續々説明の任に當る事となつたが若し斯かる實例なく水質に甚大なる影響を及ぼす事が確定義となつた場合は直ちに同協會より主務省に對し保全策を建議する事となるのであるから問題に悩まされた平町としては重要な會議である事勿論だが町長として

常磐片々

大瀧辯護士栗原欣の辯護を辭退、確かに辯護の餘地がない筈

伊坂町長大瀧發電所問題を全國の會議に諮る、態度公明正大

此二つの事實に對して利權派顔色ありや

平町上空を

偵察機飛ぶ

九臺が雁行

今朝九時頃平町の上空を數台の飛行機が南から北へ飛

木炭界緩和

石城郡の木炭界は昨年の大震災に禍されて非常なる不況に陥り一時は製炭業者等の困苦言語に絶し殆んど喰ふや喰はずの状態を持續してゐたが今年には東京市の復興も 目醒しい勢で進捗し木炭の需要も幾分は

郡長沼没講究

既報 石城郡神谷村片寄地内沼没善後策講究の爲め本日水野郡長は遠藤上席書記野村技師を隨へ實地調査をしたと

山に 狂鳥小

近ごろ小鳥の飼育熱が漸く勃興し秋日和のうららかなふけふ小鳥の群をなして嘯り唄ふ山里に小鳥の活動が目醒ましい程であるとかして捕獲する小鳥は大低鶯、山雀、小雀、目白、ひろ、うづら、等で大部分が

保護鳥

に屬してゐるので法規を以て學術研究とか飼養の目的で保護鳥を捕獲するものに對しては五羽に限り許可を與へてゐるがこのごろの小鳥のシーズンに際して

募集

文藝其他一般投稿を募集します

捕獲すべく夢中になつてゐるので平署は違反者の取締を行ふ事となつた

信用組合監査

農商務省監査主任官重正法學士昨日平信用組合を監査した

茸狩り弓術會 石城郡大野村白岩にては茸狩りを兼ねて来る七日午前十時から弓術大會を催す由